



◆臨床病理診断科 九島 巳樹

90th
SHOWA University
至誠一貫 Since 1928

昭和大学江東豊洲病院の開院以来4年間、3階の片隅にある病理鏡検室で頑張ってきましたが、臨床病理診断科の医師が患者さんを直接診察する事はないので、病院内に病理医がいることをご存じない方も多いかもしれません。臨床病理診断科の業務としては、以下のような術中診断を含む病理診断や細胞診などを行なっています。

すなわち、当院では外来、病棟や手術室などで様々な検査が行われていますが、その1つに病理診断（検査）があります。臨床において採取された細胞、あるいは内視鏡検査や手術などで摘出された組織・臓器は病理検査室に提出され、病理診断用のガラス標本が作製されます。臨床病理診断科では完成した病理標本を専門の病理医が顕微鏡で観察して、治療に必要な最終診断（病理組織診断）を行っています。また婦人科領域、喀痰などの塗抹検体や胸・腹水、脳脊髄液、尿などの液状検体、乳腺などの穿刺吸引検体を用いて細胞標本を作製し、顕微鏡で観察して良悪性の判定や病理診断の推定（細胞診）も行っています。



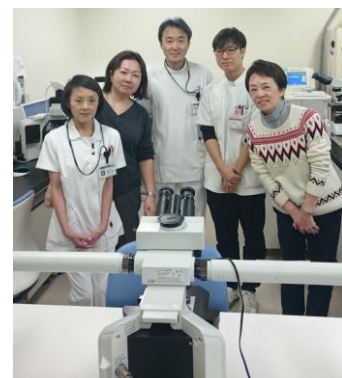
手術時に行なわれる術中迅速診断では、臨床病理診断科では乳腺材料が多いのですが、手術中に採取

された病変組織や切除断端・転移が疑われる部分などについて、凍結切片の方法で標本を作り、病理検査室に検体が到着後約15分程度で病理診断を行い手術方針の決定に関与しています。

的確な病理診断をするため、病理専門医および細胞診専門医の資格を持つ常勤病理医（3名：九島巳樹教授、

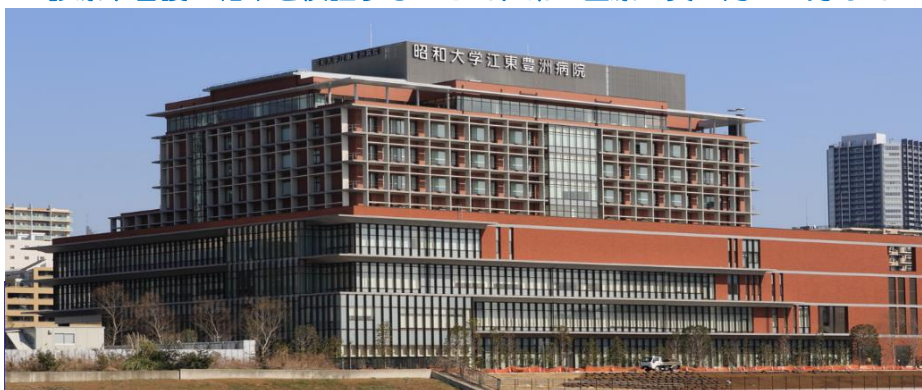
広田由子講師、河野葉子歯科医師）、非常勤4名（飯原久仁子客員教授、秋田英貴兼任講師、岡田真也兼任講師、南雲医師(大学院生)）が細胞診検査士（3名）を含む臨床検査技師と共に働いています。

患者さんとは主治医を介して病気の診断や治療方針の決定、予後の推定などに関する情報を迅速に提供することで深く関わっています。臨床病理診断科の医師（病理医）は患者さんの状態を考えながら、正しい医療が行われるように担当の医師(主治医)など臨床の現場に有用な意見を述べるとともに、診療や看護の結果を検証することで、常に医療の質の向上に努めています。



第47号のトピックス

- 臨床病理診断科 九島 巳樹
- 花粉症について（耳鼻科）
- 花粉症について（眼科）
- 「ご意見・ご要望」についての回答
- 編集後記



今年も花粉症のシーズンがやってきました。花粉症とはアレルギー性鼻炎の中でも原因が「花粉（一般的にはスギ花粉）」とされているものの通称です。諸説ありますが日本人の4人に1人は花粉症だと言われています。



① どのような症状が出てくるのか？

主な症状は「くしゃみ」「鼻水」「鼻づまり」ですが、鼻の症状以外に目の症状（かゆみ、涙、充血など）、皮膚のかゆみ、のどのかゆみを伴うことが多いです。

② なぜ鼻の症状がでるのか？

人間は1日の多くを鼻呼吸で過ごしています。そのためスギ花粉が飛散している時期には多量のスギ花粉が鼻の中に入ってくることになります。鼻に入ったスギ花粉を人間の体は異物と判断して排除しようとし、その際に起こるのが「抗原抗体反応」というものです。この反応の中でアレルギー誘発物質が放出されて鼻の粘膜が腫脹して鼻づまりが起きたり、鼻水の分泌が増えたりします。

③ どうするのが正しい対策なのか？

1番大事な対策は、花粉を体内に入れないことです。外出時にはマスク・花粉症対策メガネ・帽子を着用し、洋服に関しても花粉が付きにくい表面がツルツルした素材を選びましょう。さらに帰宅時には家に入る前に着ていた上着をはたいて花粉を落として家の中に花粉を持ち込まないように心がけるのもよいとされています。

④ それでも症状がでてしまう場合は？

薬での治療となります。アレルギーの薬は様々なメーカーから販売されています。ご自身と薬の相性というのもあり必ずしも評判通りの薬の効果が出なかったり、副作用で眠気やだるさが出てしまうこともあります。最近は薬局で買えるアレルギーの薬も増えてきました。病院に行かずに購入できる気軽さもあり便利になったと感じますが、効果が乏しかったり、副作用が出てしまう場合には耳鼻咽喉科を受診して薬の種類の相談をされると良いと思います。

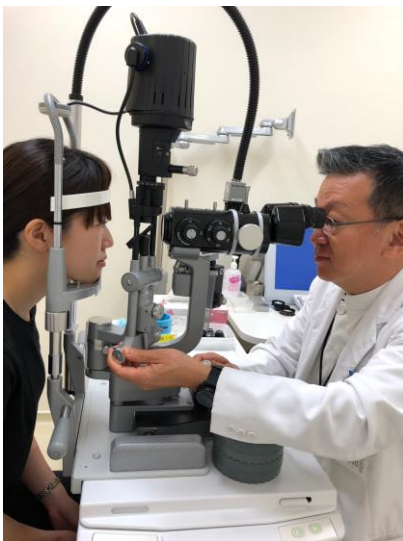
鼻水・鼻づまりがひどいと、イライラしたり仕事や勉強のパフォーマンスが低下してしまったりもあります。今回の内容を参考に頂き、適切な予防と治療をすることで皆様が健やかに生活できることを願っております。



◆花粉症について 眼科 岩渕 成祐

2月になると花粉症の季節がやってきて、憂鬱になる方もいらっしゃると思います。今回は少しでも花粉症を軽くする工夫をお伝えします。

まず花粉症は何かと言いますと、花粉によっておこる疾患の総称です。眼科では、花粉症はアレルギー性結膜炎として起こります。アレルギーは本来身体が持っている免疫反応のひとつですが、細菌やウイルスに対するものとは違い、本来無害なものに対して身体が過剰に反応してしまったものです。アレルギー性結膜炎は色々な原因（ハウスダスト、花粉、動物の毛など）で起こりますが、その中で花粉によるものが花粉症に分類されます。2月からはじまるスギ花粉症が有名ですが、ほぼ通年で発症しております。5月頃までは樹木によるものが多く、それ以降は草花によるものが多くなっています。しかし多くの方は毎年2月になると目のかゆみやくしゃみ鼻水などにお困りの事と思います。原因で一番多いのがスギ花粉ですので、眼科クリニックではその時期にアレルギー性結膜炎の患者さんの来院が多くなります。



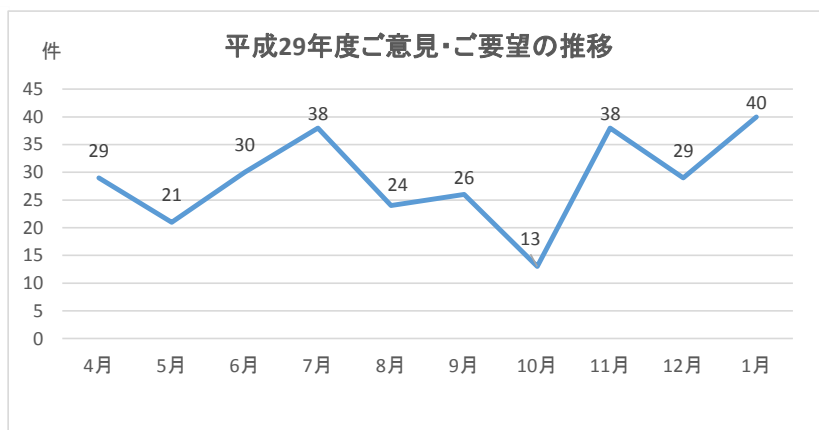
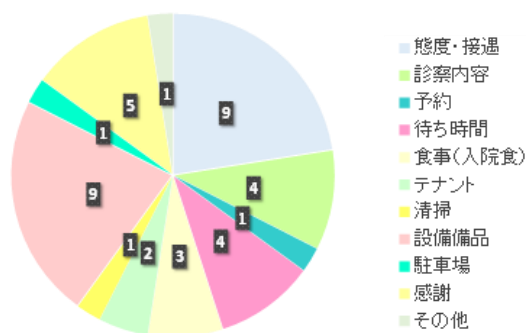
最近、アレルギー性結膜炎では花粉の飛散予測時期の2週間ほど前からステロイド薬ではない抗アレルギー点眼薬を使用すると、症状が軽くなる事がわかってきております。特に症状の強い方、花粉が大量に飛ぶと予報が出た年には有効と言われております。毎年花粉症に悩まされている方や、花粉の飛散が多いと予想される年は早めに眼科を受診して、目薬を処方してもらうことをお勧めいたします。ほかには、コートに花粉が付いてしまうと、いつも花粉に暴露されている状態になってしまう事を避けるために、家に入る前にコートを叩いて花粉を落としたり、花粉が付着しないように毛の多いコートを避ける事で、症状を軽くする事もできます。実際花粉症に悩まされている患者さんのコートには花粉がたくさん付いていたこともありました。これらの工夫で、辛い花粉症の季節を乗り切りましょう。



◆「ご意見・ご要望」についての回答

ご意見・ご要望	回答・改善策等
休憩室に Wi-Fi を設置して欲しい。	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>Wi-Fi の設置につきましては、院内で使用している電子機器専用のネットワーク障害の原因となる恐れがあるため、大変恐れ入りますが設置は見合わせております。ご理解のほどよろしくお願いいたします。</p> <p style="text-align: right;">回答部署：管理課</p>
ご意見・ご要望	回答・改善策等
面会の受付やお手洗いの表示がなく、分かりづらいので改善してほしい。	<p>この度はご不便をおかけして申し訳ございません。現在も 1 階エントランス内エスカレーター付近など、いくつかフロア図がございますのでお困りの際はご覧ください。</p> <p>また、お気軽にお近くのスタッフにお声掛けください。貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p style="text-align: right;">回答部署：管理課</p>

平成30年1月分
ご意見・要望の内訳
昭和大学江東豊洲病院総件数40件



編集後記 呼吸器・アレルギー内科 岡田 壮令

年があけ、2018年が始まったと思っただけですが、気がつけば既に2ヶ月が過ぎようとしています。今年度は重なる寒波の襲来で、都心でも氷点下を記録するほどの寒い冬でした。またインフルエンザも大流行しており、ピークは過ぎたとはいえ、まだまだ油断できない状況で、いまだ寒さも残っています。しかしながら着実に日が延び、日差しは春を感じさせることも多くなりました。厳しい冬ももう少しの辛抱です。

この春、当院は開院4周年を迎え、5年目の節目に入ろうとしています。当院の評価も定まりつつある今、より地域に貢献できるよう努力してゆきたいと思えます。

